

【盛土材料の適否】

ここでは、土質試験結果から盛土材料としての適否の判定を行う。
判定方法は、国立研究開発法人土木研究所 寒地土木研究所発行「北海道における不良土対策マニュアル」（平成25年）に記載されている以下の基準により判定する。

不良土の判定は下記により総合的に行う。

1. 室内トラフィカビリティーによる判定

$q_c=300\text{kN/m}^2$ 未満は湿地ブルドーザの走行性が確保できないため、不良土となる。

2. 土質定数による判定(目安) 1. を実施の時は、これによらない。

$$\frac{\text{自然含水比 } (w_n)}{\text{最適含水比 } (w_{opt})} \geq A$$

$A=1.33$ 細粒土、 $A=1.35$ 砂質土

$A=1.20$ 礫質土

3. スレーキングによる判定

スレーキングが起こるか否かの確認

4. 盛土材として用いない土

蛇紋岩の粘土化したもの、温泉余土、酸性白土、ベントナイトおよび凍土などは、盛土材料として適していないため、一般に捨土する。

5. 土質試験結果と地盤材料の工学的分類方法からの不良土判定

- ① 風化火山灰のうち火山灰質粘性土Ⅱ型に分類されたものは、液性限界が高いことから圧縮性が大きく、こね返しに対する影響から、不良土と判定できる。
- ② CH（粘土）に分類された試料は圧縮性が大きく、こね返しの影響が大きいので、不良土と判定できる。
- ③ w_n （自然含水比）が w_L （液性限界）より高い場合は、不良土と判断できる。

6. 火山灰質土の判定

北海道の火山灰質土について、含水比、コンシステンシー限界、強熱減量、塑性限界などから、火山灰質土の良、不良を判定できる。

これより次頁に当該土の盛土材料としての適否判定を行う。

試料名： 固化材改良土

盛土材料の適否		
1. 室内トラフィカビリティによる判定		
qc=300kN/m ² 未満は湿地ブルドーザの走行性が確保できない。	2120+ kN/m ²	適
2. 土質定数による判定（目安）		
自然含水比 (W _n) / 最適含水比 (W _{opt}) ≥ 1.35（砂質土）	25.5 / 30.5 = 0.84 < 1.35	適
3. スレーキングによる判定		
スレーキングが起こるか否かの確認。	-	-
4. 盛土として用いない土		
蛇紋岩の粘土化したもの、温泉余土、酸性白土、ベントナイト及び凍土	粘性土まじり礫質砂 (SG-Cs)	適
5. 土質試験結果と地盤材料の工学的分類方法からの不良土判定		
① 風化火山灰のうち、V H ₂ （火山灰質粘性土Ⅱ型）	粘性土まじり礫質砂 (SG-Cs)	適
② CH（粘土）	粘性土まじり礫質砂 (SG-Cs)	適
③ 自然含水比 (W _n) / 液性限界 (WL) ≥ 1.0	25.5 / NP = - ≥ 1.0	適

【判定】

当該土は、礫分35.8%・砂分57.1%・細粒分（75μm以下）7.1%の粒度構成となっており、砂分が卓越する粒度構成の土質材料である。自然含水比はW_n=25.5%が得られ、最適含水比 (W_{opt}=30.5%) に対してやや乾燥側に位置しており、所定の締固め施工が十分可能な含水比状態である。また、室内コーン指数はqc=2120kN/m²以上であることから、良質土と判定され、建設機械のトラフィカビリティも十分確保できると思われる。したがって、当該土は道路盛土材料や埋戻し土として使用可能と判断される。

土質試験結果一覧表（材料）

調査件名

固化材改良土

整理年月日

令和 4年 7月 15日

整理担当者

山端 智巳



試料番号 (深 さ)		固化材改良土					
一般	湿潤密度 ρ_s Mg/m ³						
	乾燥密度 ρ_d Mg/m ³						
	土粒子の密度 ρ_s Mg/m ³	2.254					
	自然含水比 w_n %	25.5					
	間隙比 e						
	飽和度 S_r %						
粒度	石分 (75mm以上) %						
	礫分 ¹⁾ (2~75mm) %	35.8					
	砂分 ¹⁾ (0.075~2mm) %	57.1					
	シルト分 ¹⁾ (0.005~0.075mm) %	7.1					
	粘土分 ¹⁾ (0.005mm未満) %						
	最大粒径 mm	26.5					
コンシステンシー特性	均等係数 U_c	14.16					
	液性限界 w_L %	N P					
	塑性限界 w_p %	N P					
	塑性指数 I_p	N P					
分類	地盤材料の分類名	粘性土まじり礫質砂					
	分類記号	(SG-Cs)					
締め固め	試験方法	B-c					
	最大乾燥密度 ρ_{dmax} Mg/m ³	1.257					
	最適含水比 w_{opt} %	30.5					
CBR	試験方法						
	膨張比 r_e %						
	貫入試験後含水比 w_2 %						
	平均 CBR %						
	%修正 CBR %						
コーン指数							
	突固め回数 回/層	55					
	コーン指数 q_c kN/m ²	2120+					
	単位容積質量試験 Kg/l	1.10					

特記事項

1) 石分を除いた75mm未満の土質材料に対する百分率で表す。

[1kN/m² ≒ 0.0102kgf/cm²]

JIS A 1202 JGS 0111	土 粒 子 の 密 度 試 験 (測定)	
------------------------	----------------------	--

調査件名 固化材改良土

試験年月日 令和 4年 7月 8日

試験者 山端 智巳

試料番号 (深さ)		固化材改良土					
ピクノメーター No.		7	18	9			
(試料+蒸留水+ピクノメーター) 質量 $m_s(T_1)$ g		164.310	173.765	172.006			
$m_s(T_1)$ をはかったときの内容物の温度 T_1 °C		20.0	20.0	20.0			
T_1 °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T_1)$ Mg/m ³		0.99820	0.99820	0.99820			
温度 T_1 °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター) 質量 $m_s(T_1)^{1)}$ g		157.322	166.301	164.767			
試料の 炉乾燥質量	容 器 No.	F-7	F-8	F-9			
	(炉乾燥試料+容器)質量g	63.869	64.833	65.341			
	容 器 質 量 g	51.308	51.432	52.375			
	m_s g	12.561	13.401	12.966			
土 粒 子 の 密 度 ρ_s Mg/m ³		2.250	2.253	2.260			
平 均 値 ρ_s Mg/m ³		2.254					
試料番号 (深さ)							
ピクノメーター No.							
(試料+蒸留水+ピクノメーター) 質量 $m_s(T_1)$ g							
$m_s(T_1)$ をはかったときの内容物の温度 T_1 °C							
T_1 °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T_1)$ Mg/m ³							
温度 T_1 °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター) 質量 $m_s(T_1)^{1)}$ g							
試料の 炉乾燥質量	容 器 No.						
	(炉乾燥試料+容器)質量g						
	容 器 質 量 g						
	m_s g						
土 粒 子 の 密 度 ρ_s Mg/m ³							
平 均 値 ρ_s Mg/m ³							
試料番号 (深さ)							
ピクノメーター No.							
(試料+蒸留水+ピクノメーター) 質量 $m_s(T_1)$ g							
$m_s(T_1)$ をはかったときの内容物の温度 T_1 °C							
T_1 °Cにおける蒸留水の密度 $\rho_w(T_1)$ Mg/m ³							
温度 T_1 °Cの蒸留水を満たしたときの (蒸留水+ピクノメーター) 質量 $m_s(T_1)^{1)}$ g							
試料の 炉乾燥質量	容 器 No.						
	(炉乾燥試料+容器)質量g						
	容 器 質 量 g						
	m_s g						
土 粒 子 の 密 度 ρ_s Mg/m ³							
平 均 値 ρ_s Mg/m ³							

特記事項

1) ピクノメーターの検定結果から求める。

$$\rho_s = \frac{m_s}{m_s + [m_s(T_1) - m_s(T_1)]} \rho_w(T_1)$$

調査件名	固化材改良土	試験年月日	令和 4年 7月 8日
------	--------	-------	-------------

試験者 山端 智巳

試料番号 (深さ)	固化材改良土					
容器 No.	A-304	A-115	A-228			
m_a g	345.2	401.2	391.5			
m_b g	285.7	328.5	324.6			
m_c g	52.6	53.2	52.7			
w %	25.5	26.4	24.6			
平均値 w %	25.5					
特記事項						

試料番号 (深さ)						
容器 No.						
m_a g						
m_b g						
m_c g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号 (深さ)						
容器 No.						
m_a g						
m_b g						
m_c g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号 (深さ)						
容器 No.						
m_a g						
m_b g						
m_c g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

試料番号 (深さ)						
容器 No.						
m_a g						
m_b g						
m_c g						
w %						
平均値 w %						
特記事項						

$$w = \frac{m_a - m_b}{m_b - m_c} \times 100$$

m_a : (試料+容器)質量
 m_b : (炉乾燥試料+容器)質量
 m_c : 容器質量

JIS A 1204 JGS 0131	土の粒度試験（ふるい分析）	
------------------------	---------------	--

調査件名 固化材改良土 試験年月日 令和 4年 7月 12日

試料番号（深さ） 固化材改良土 試験者 山端 智巳

全 試 料				2mmふるい通過試料（沈降分析を行わない場合）			
含 水 比	容器 No.			含	容器 No.		
	m_a g			水 比	m_a g		
	m_b g				m_b g		
	m_c g				m_c g		
	w %				w_1 %		
平均値 w %				平均値 w_1 %			
（全試料＋容器）質量			g	（2mmふるい通過試料＋容器）質量			g
			2865.5				115.325
容器（No. ）質量			g	容器（No. ）質量			g
全試料質量 m			g	2mmふるい通過試料の質量 m_1			g
			2865.5				115.325
全試料の炉乾燥質量 $m_s = \frac{m}{1+w/100}$			g	2mmふるい通過試料の炉乾燥質量 $m_{1s} = \frac{m_1}{1+w_1/100}$			g
			2865.5				115.325
2mmふるい残留分の水洗い後の試料	（試料＋容器）質量	g	1026.0	全試料の炉乾燥質量に対する 2mmふるい通過試料の炉乾燥質量比 $\frac{m_s - m_{0s}}{m_s}$			
	容器（No. ）質量	g					
	炉乾燥質量 m_{0s}	g	1026.0				
				0.642			

2mmふるい残留分 m_{0s} のふるい分析

ふるい mm	容器 No.	（残留試料＋容器）質量 g	容器質量 g	残留試料質量 $m(d)$ g	加積残留試料質量 $\Sigma m(d)$ g	加積残留率 $\frac{\Sigma m(d)}{m_s} \times 100$ %	通過質量分率 $P(d)$ $\left(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_s}\right) \times 100$ %
75							
53							
37.5							
26.5		0.0		0.0	0.0	0.0	100.0
19		226.4		226.4	226.4	7.9	92.1
9.5		186.3		186.3	412.7	14.4	85.6
4.75		252.2		252.2	664.9	23.2	76.8
2		361.1		361.1	1026.0	35.8	64.2

2mmふるい通過分 m_{1s} のふるい分析（沈降分析を行わない場合）

ふるい μm	容器 No.	（残留試料＋容器）質量 g	容器質量 g	残留試料質量 $m(d)$ g	加積残留試料質量 $\Sigma m(d)$ g	加積残留率 $\frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}} \times 100$ %	加積通過率 P $\left(1 - \frac{\Sigma m(d)}{m_{1s}}\right) \times 100$ %	通過質量分率 $P(d)$ $\frac{m_s - m_{0s}}{m_s} \times P$ %
850		33.053		33.053	33.053	28.7	71.3	45.8
425		28.203		28.203	61.256	53.1	46.9	30.1
250		20.119		20.119	81.375	70.6	29.4	18.9
106		16.886		16.886	98.261	85.2	14.8	9.5
75		4.311		4.311	102.572	88.9	11.1	7.1

特記事項

調査件名

固化材改良土

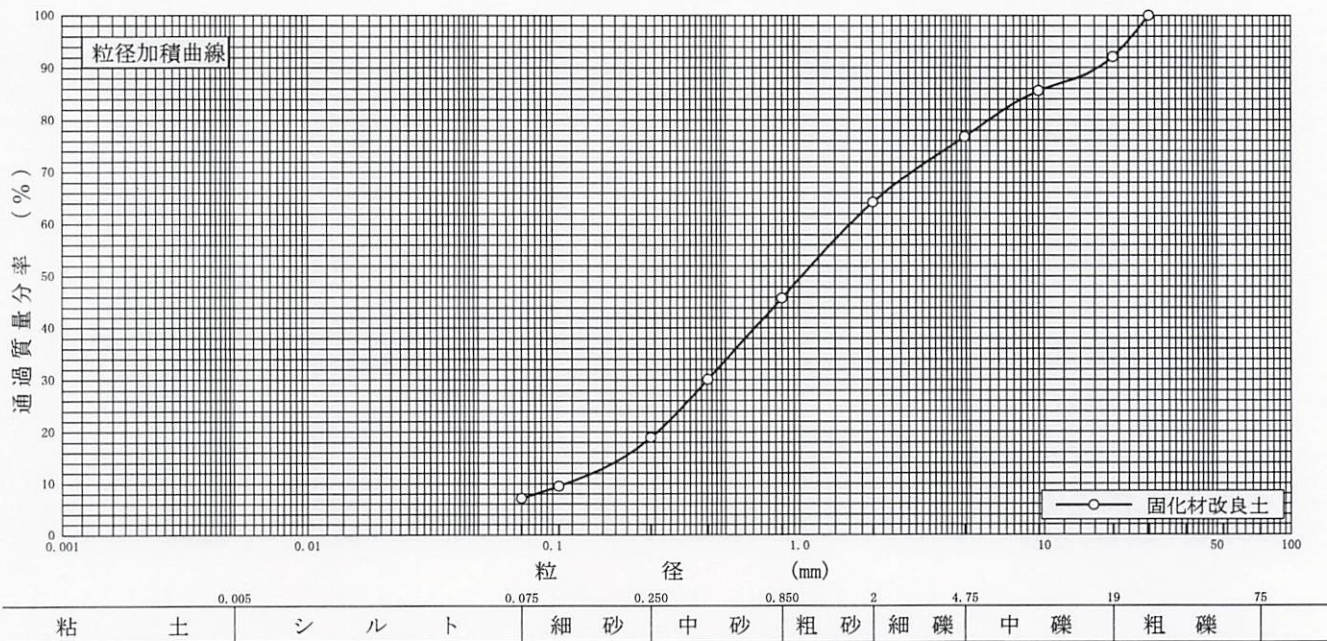
試験年月日

令和 4年 7月 12日

試験者

山端 智巳

試料番号 (深さ)	固化材改良土				試料番号 (深さ)		固化材改良土
	粒径 mm	通過質量分率%	粒径 mm	通過質量分率%	粗 礫 分 %		7.9
ふるい 分析	75		75		中 礫 分 %		15.3
	53		53		細 礫 分 %		12.6
	37.5		37.5		粗 砂 分 %		18.4
	26.5	100.0	26.5		中 砂 分 %		26.9
	19	92.1	19		細 砂 分 %		11.8
	9.5	85.6	9.5		シルト分 %		7.1
	4.75	76.8	4.75		粘土分 %		
	2	64.2	2		2mmふるい通過質量分率 %		64.2
	0.850	45.8	0.850		425 μ mふるい通過質量分率 %		30.1
	0.425	30.1	0.425		75 μ mふるい通過質量分率 %		7.1
	0.250	18.9	0.250		最大粒径 mm		26.5
	0.106	9.5	0.106		60 % 粒径 D_{60} mm		1.6091
	0.075	7.1	0.075		50 % 粒径 D_{50} mm		1.0218
沈降 分析					30 % 粒径 D_{30} mm		0.4232
					10 % 粒径 D_{10} mm		0.1136
					均等係数 U_c		14.16
					曲率係数 U'_c		0.98
					土粒子の密度 ρ_s Mg/m ³		*
					使用した分散剤		
					溶液濃度, 溶液添加量		
					20 % 粒径 D_{20} mm		0.2657



特記事項

JIS A 1205
JGS 0141

土の液性限界・塑性限界試験（試験結果）

調査件名 固化材改良土

試験年月日 令和 4年 7月 11日

試験者 山端 智巳

試料番号（深さ） 固化材改良土

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 w_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	N P
			塑性限界 w_p %
			N P
			塑性指数 I_p
			N P
		ヒモ状にならず試験不能	

試料番号（深さ）

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 w_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	
			塑性限界 w_p %
			塑性指数 I_p

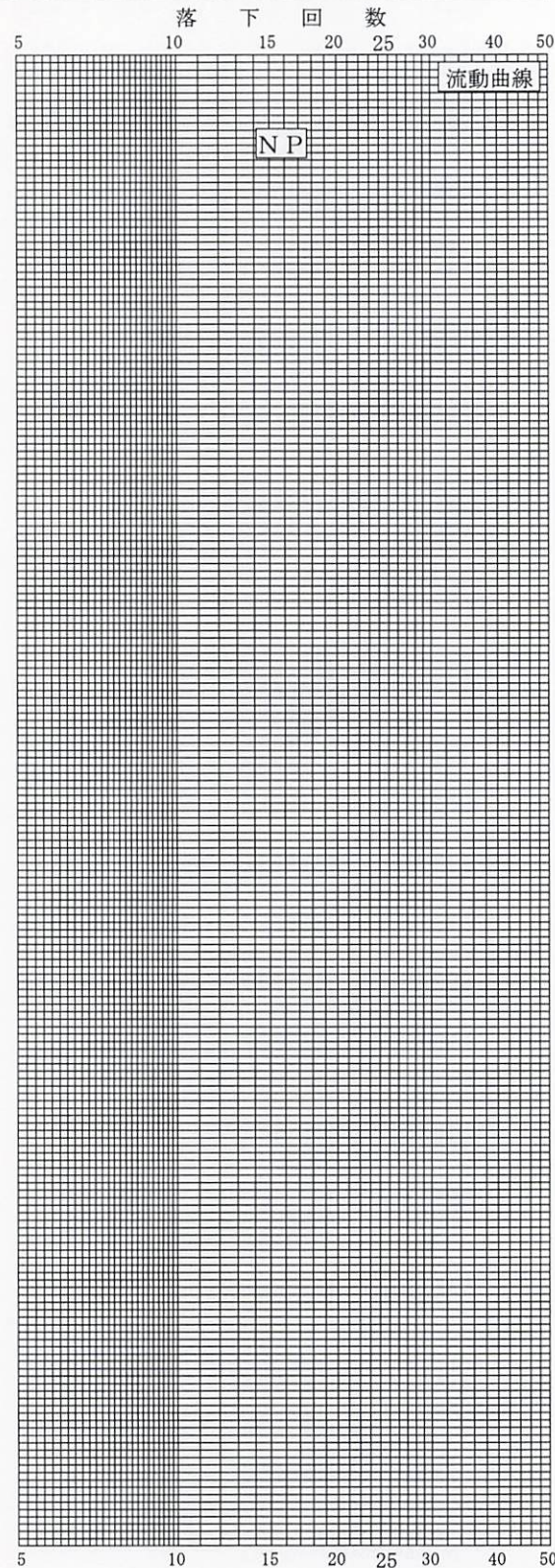
試料番号（深さ）

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 w_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	
			塑性限界 w_p %
			塑性指数 I_p

試料番号（深さ）

液性限界試験		塑性限界試験	液性限界 w_L %
落下回数	含水比 w %	含水比 w %	
			塑性限界 w_p %
			塑性指数 I_p

特記事項



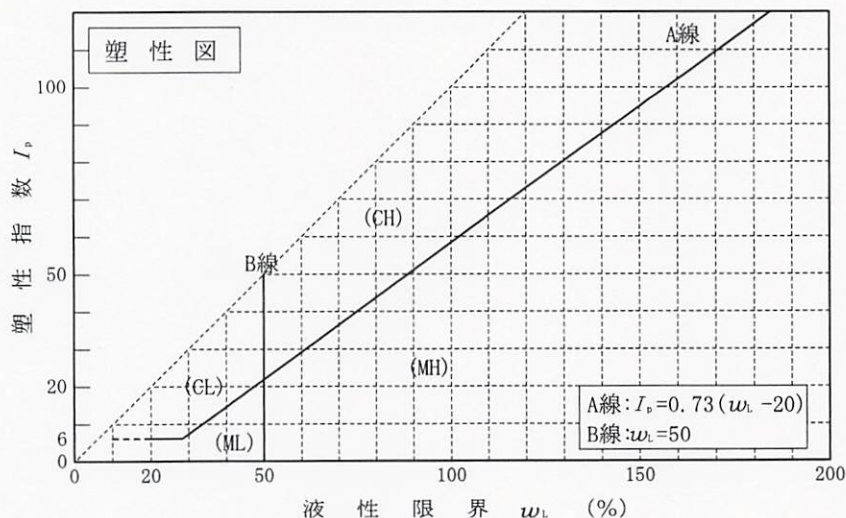
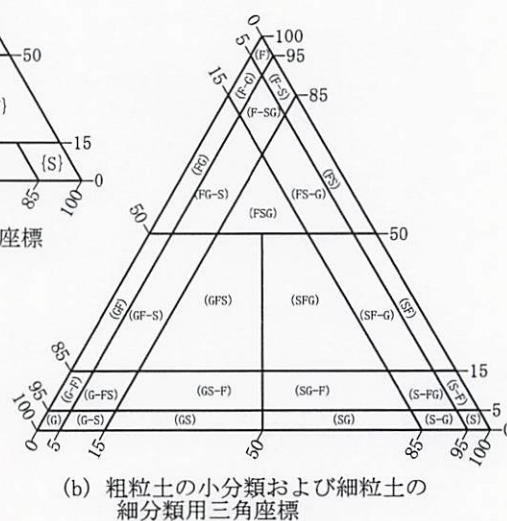
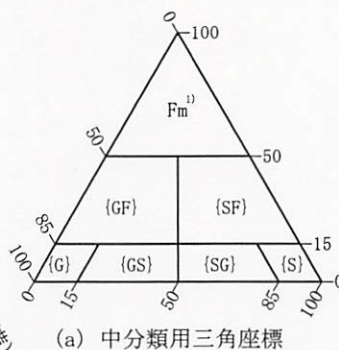
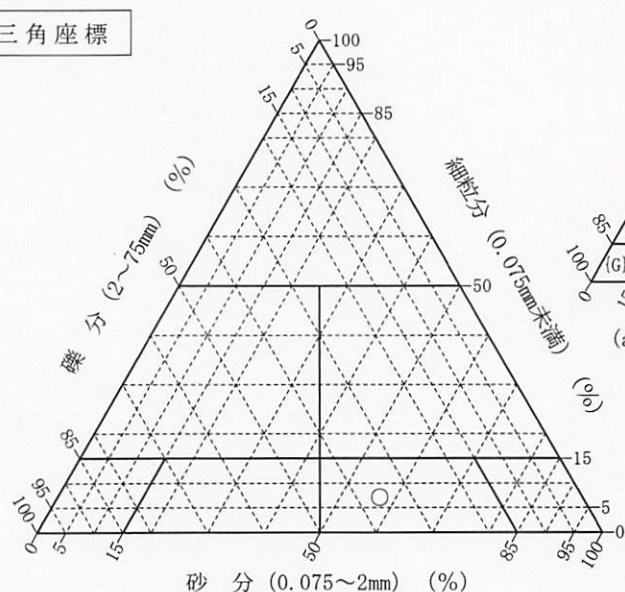
調査件名 固化材改良土

試験年月日 令和 4年 7月 15日

試 験 者 山 端 智 巳

試料番号 (深さ)	固化材改良土				
石分(75mm以上) %					
礫分(2～75mm) %	35.8				
砂分(0.075～2mm) %	57.1				
細粒分(0.075mm未満) %	7.1				
シルト分(0.005～0.075mm) %					
粘土分(0.005mm未満) %					
最大粒径 mm	26.5				
均等係数 U_c	14.16				
液性限界 w_L %	N P				
塑性限界 w_p %	N P				
塑性指数 I_p	N P				
地盤材料の分類名	粘性土まじり 礫質砂				
分類記号	(SG-Cs)				
凡例記号	○				

三角座標



特記事項 1) 主に観察と塑性図で判別分類

JIS A 1210 JGS 0711	突固めによる土の締固め試験（測定）	
------------------------	-------------------	--

調査件名 固化材改良土 試験年月日 令和 4年 7月 11日

試料番号（深さ） 固化材改良土 試験者 山端 智巳

試験方法		B-c	土質名称	粘性土まじり礫質砂 (SG-Cs)			
試料の準備方法		乾燥法 , 湿潤法	ランマー質量 kg	2.5	モールド	内径 mm	150
試料の使用方法		繰返し法 , 非繰返し法	落下高さ mm	300		高さ ¹⁾ mm	125.0
含水比	試料分取後 w_0 %		突固め回数 回/層	55		容量 V mm ³	2209×10^3
	乾燥処理後 w_1 %		突固め層数 層	3		質量 m_1 g	5022
測定 No.		1	2	3	4		
(試料+モールド) 質量 m_2 g		8139	8349	8545	8648		
湿潤密度 ρ_t Mg/m ³		1.411	1.506	1.595	1.641		
平均含水比 w %		22.6	25.7	28.5	30.5		
乾燥密度 ρ_d Mg/m ³		1.151	1.198	1.241	1.257		
含水比	容器 No.	A-266	A-352	A-109	A-74		
	m_a g	532.6	401.2	435.5	398.5		
	m_b g	444.3	330.9	350.0	316.8		
	m_c g	51.7	52.8	53.2	54.0		
	w %	22.5	25.3	28.8	31.1		
	容器 No.	A-286	A-314	A-360	A-129		
	m_a g	436.5	415.5	481.2	485.5		
	m_b g	365.4	340.4	387.2	386.2		
	m_c g	52.3	52.7	52.7	53.0		
	w %	22.7	26.1	28.1	29.8		
測定 No.		5	6	7	8		
(試料+モールド) 質量 m_2 g		8654	8580	8432			
湿潤密度 ρ_t Mg/m ³		1.644	1.611	1.544			
平均含水比 w %		32.5	35.7	40.6			
乾燥密度 ρ_d Mg/m ³		1.241	1.187	1.098			
含水比	容器 No.	A-88	A-65	A-321			
	m_a g	346.5	500.7	512.2			
	m_b g	274.3	382.4	379.2			
	m_c g	52.7	52.7	51.6			
	w %	32.6	35.9	40.6			
	容器 No.	A-158	A-239	A-200			
	m_a g	496.5	477.7	432.2			
	m_b g	388.2	366.2	322.8			
	m_c g	53.0	52.3	52.7			
	w %	32.3	35.5	40.5			

特記事項

- 1) 内径15cmのモールドの場合はスぺーサーディスクの高さを差引く。
- 2) モールドの質量は底板を含む。

$$\rho_d = \frac{\rho_t}{1 + w/100}$$

調査件名

固化材改良土

試験年月日

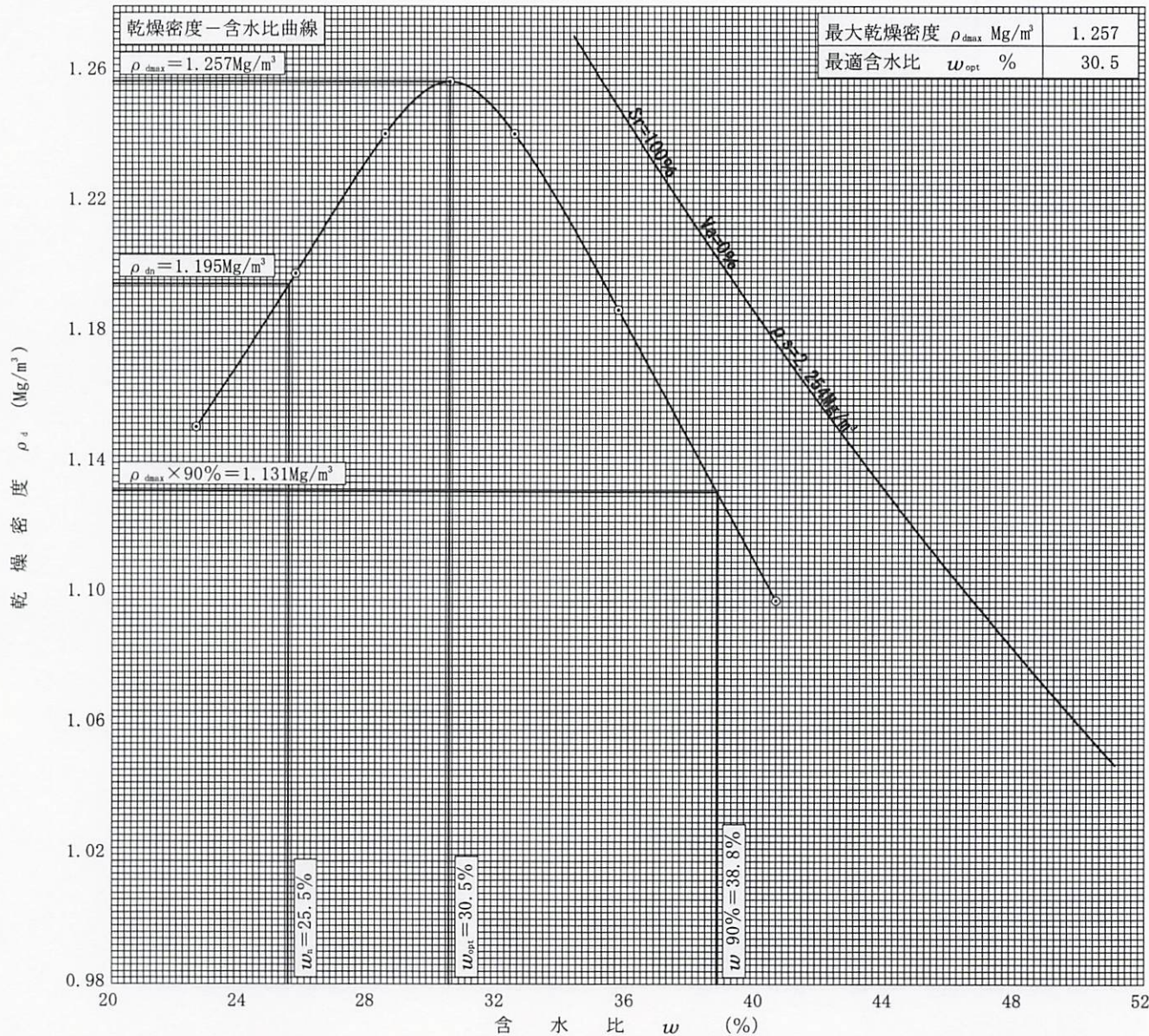
令和 4年 7月 11日

試料番号 (深さ) 固化材改良土

試験者

山端 智巳

試験方法	B-c		土質名称		粘性土まじり礫質砂 (SG-Cs)			
試料の準備方法	乾燥法, 湿潤法		ランマー質量 kg	2.5	土粒子の密度 ρ_s Mg/m ³	2.254		
試料の使用法	繰返し法, 非繰返し法		落下高さ mm	300	試料調製前の最大粒径 mm	26.5		
含水比	試料分取後 w_0 %			突固め回数 回/層	55	モールド	内径 mm	150
	乾燥処理後 w_1 %			突固め層数 層	3		高さ ¹⁾ mm	125.0
測定 No.	1	2	3	4	5	6	7	8
平均含水比 w %	22.6	25.7	28.5	30.5	32.5	35.7	40.6	
乾燥密度 ρ_d Mg/m ³	1.151	1.198	1.241	1.257	1.241	1.187	1.098	



特記事項		室内コーン指数測定			1) 内径150mmのモールドの場合はスパーサーディスクの高さを差引く。	
		コーン底面積 A	3.24 cm ²	貫入量 (cm)		荷重計の読み
		校正係数 K	4.58 N/目盛	2.5		1回目 2回目
		自然含水比 w_n	25.5 %	5.0		150+ 150+
				平均貫入抵抗力 Q_c (N)		687+
				コーン指数 q_c (kN/m ²)		2120+

$$\rho_{dast} = \frac{\rho_w}{\rho_w/\rho_s + w/100}$$

JIS A	1109 1110	骨材の密度及び 吸水量試験		報告用紙	
試料名		試験年月日			
		試験者			
測定番号	1	2	測定番号	1	2
①表乾試料質量(g)			①表乾試料質量(g)		
②フラスコ質量(g)			②水中試料質量(g)		
③試料+フラスコ質量(g)			③測定時の水温(℃)		
④試料+フラスコ+水質量(g)			④水の密度		
⑤フラスコに加えた水質量(g)			⑤密度①/(①-②)×④		
⑥測定時の水温(℃)			⑥平均値 (Kg/l)		
⑦水の密度			⑦乾燥後の試料質量(g)		
⑧密度①/(500-⑤)×⑦			⑧吸水量(①-⑦)/⑦×100(%)		
⑨平均値 (Kg/l)			⑨平均値 (%)		
⑩乾燥後の試料質量(g)			備考		
⑪吸水量(①-⑩)/⑩×100(g)					
⑫平均値 (%)					
JIS A1104		骨材の単位容積質量試験		報告用紙	
試料名		試験年月日			
固化材改良土(ジッキング法)		令和4年7月14日			
		試験者			
		山端 智巳			
測定番号	1		2		
試料+容器質量	(kg)	17.07	17.09		
容器質量	(kg)	6.053	6.053		
試料質量	(kg)	11.02	11.04		
容器の容積	(l)	10	10		
①容器中の試料質量	(Kg/l)	1.10	1.10		
②容器の容積					
②含水量測定のための 試料の乾燥前質量	(kg)				
③含水量測定のための 試料の乾燥後質量	(kg)				
単位容積質量①×	$\frac{③}{②}$	(Kg/l)	1.10		

[illegible]

分析結果報告書

整理No. A2207020-001

株式会社 北海サンド工業

様

計量証明事業登録番号第628号

(株)北炭ゼネラルサービス

環境センター

〒059-1366 苫小牧市あけぼの町1丁目3番3号
TEL 0144-55-1171 FAX 0144-55-1173

本社 札幌市白石区菊水9条3丁目3番6号

環境計量士

原 淳一

報告書番号	A2207020	発行年月日	令和4年7月15日
試料受付年月日	令和4年7月6日	試料採取者	依頼者

貴依頼の試料についての分析の結果を下記のとおり報告いたします。

試料名	固化材改良土			
試料採取年月日				
採取条件	[天候]	[気温] °C	[水温] °C	
業務名				
分析項目	単位	分析結果	定量下限	分析方法
カドミウム及びその化合物	mg/ℓ	0.0014	0.0003	JIS K 0102 55.4 ICP質量分析法
六価クロム化合物	mg/ℓ	不検出	0.005	JIS K 0102 65.2.1 ジフェニルカルバジド吸光度法
シアン化合物	mg/ℓ	不検出	0.1	昭和46年 環境庁告示第59号 付表1
水銀及びその化合物	mg/ℓ	不検出	0.0005	昭和46年 環境庁告示第59号 付表2 原子吸光法
アルキル水銀化合物	mg/ℓ	不検出	0.0005	昭和46年 環境庁告示第59号 付表3 ガスクロマトグラフ法 (ECD)
セレン及びその化合物	mg/ℓ	不検出	0.001	JIS K 0102 67.4 ICP質量分析法
鉛及びその化合物	mg/ℓ	0.009	0.001	JIS K 0102 54.4 ICP質量分析法
砒素及びその化合物	mg/ℓ	0.001	0.001	JIS K 0102 61.4 ICP質量分析法
ふっ素及びその化合物	mg/ℓ	0.38	0.08	JIS K 0102 34.4 流れ分析法
ほう素及びその化合物	mg/ℓ	0.81	0.05	JIS K 0102 47.4 ICP質量分析法
カドミウム及びその化合物	mg/kg	不検出	5	JIS K 0102 55.4 ICP質量分析法
六価クロム化合物	mg/kg	不検出	5	JIS K 0102 65.2.1 ジフェニルカルバジド吸光度法
シアン化合物	mg/kg	不検出	5	昭和46年 環境庁告示第59号 付表1
水銀及びその化合物	mg/kg	不検出	0.1	昭和46年 環境庁告示第59号 付表2 原子吸光法
セレン及びその化合物	mg/kg	不検出	5	JIS K 0102 67.4 ICP質量分析法
鉛及びその化合物	mg/kg	100	5	JIS K 0102 54.4 ICP質量分析法
砒素及びその化合物	mg/kg	不検出	5	JIS K 0102 61.4 ICP質量分析法
ふっ素及びその化合物	mg/kg	60	10	JIS K 0102 34.4 流れ分析法
ほう素及びその化合物	mg/kg	46	5	JIS K 0102 47.4 ICP質量分析法
		- 以下余白 -		
備考	※分析結果欄に不検出と表示されている結果は定量下限値未満を示します。 試験液の調整方法は以下による、 土壌溶出量試験：平成三年八月環境庁告示四十六号付表 土壌含有量試験：平成十五年三月六日環境省告示第十九号付表			